



— 歌人伊藤生更の著書・歌集に学ぶ —

いとうせいこう

「美知思波」会員 饗場敏子



歌集

『草谷』（1936年）
『柴山』（1951年）
『山雲』（1953年）
『甲斐之國』（1965年）

著書

『作歌道』（1949年）
『茂吉秀歌の鑑賞』（1959年）

平成元年退職した私は或る日、今まで見過ごしていた自然界とゆっくり向き合うことができ、美しさに気付かされました。これが短詩系文学を志すきっかけでした。中でも短歌という三十一文字が最適だと気付き、早速実行に移すことにしました。しばらくして、山梨県で一番古い歴史を持つ短歌結社「美知思波」に出会いました。創始者の伊藤生更(1884-1972)は韮崎市穴山町出身のアララギ歌人です。平成30年7月6日、生更の4基めの歌碑が穴山町さくら公園に建立され、「美知思波」の会員も除幕式に参加しました。

生更は「アララギ」に入会し、斎藤茂吉を唯一の師と仰ぎ茂吉が亡くなるまで28年間指導を受けました。その間、昭和10年には短歌結社「美知思波」を創刊しました。

生更の著書『作歌道』には作歌の指針が熱く記されています。「主観写生を抱合した客観写生」つまり、「物をよく見て実物を写生する」「安易な主観語で表現しない」などの教えが例を挙げながら書かれています。また、どういう歌が良いのかという問いには、『万葉集』の様な歌だと答えています。

私は、生更の歌集『草谷』『柴山』『山雲』『甲斐之國』などを繰り返し読みながら『作歌道』に近づこうと1日1首を目標に挑戦しています。道程はまだまだ遠いと思いつつ、詠んだり捨てたりの繰り返しですが。

「美知思波」は平成30年8月号で惜しまれながら終刊となりました。会員の合同歌集、「美知思波」85周年記念誌発行の準備が今進行中です。

最後に、昭和22年「美知思波」夏安居が南アルプス市妙了寺で行われた折に、生更が詠んだ歌を紹介いたします。

*夏安居=夏の学習会



南アルプス市立図書館

私の読書歴

第6回

さるすべり
○百日紅の花くれなるに日は照りてもの静かなる寺に入りきつ (妙了寺)

ぜひ、職員に声をかけてください

新聞や雑誌のバックナンバーも保存しています。

「閉架書庫」を整備しました！

「閉架書庫」は図書館の縁の下の力持ちの役割を果たしています。

南アルプス市では、平成27年度から、八田ふれあい図書館・白根桃源図書館・わかくさ図書館・甲西図書館の「閉架書庫」の整備を開始し、このたび終了しました。

知識の宝庫である「閉架書庫」を整備したことで、みなさまにより充実したサービスをお届けできると考えています。

市立図書館には、約三十四万五千冊の蔵書がありますが、そのなかの三分の一にあたる、約十一万三千冊は「閉架書庫」の中にあるのです。

たとえば、「司馬遼太郎の本が他にもあったと思うけれど?」「料理の本をもっとみたい!」などという場合は、ぜひ、職員に声をかけてください。

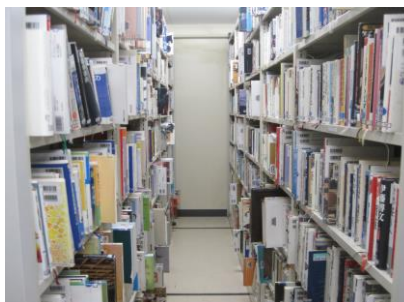
たくさんの方が出番を待っています!

でも、そのなかには、まだまだ読んでいただきたい、「面白い本」「役に立つ本」がたくさんあります。

閉架書庫を

ご存知ですか？

市立図書館には、いつもみなさまに自由に利用いただける閲覧室のほかにも多くの本があり、「閉架書庫」で保存しています。



「閉架書庫」の本は、館内の検索機・インターネットから検索することができます

図書館でシネマ

南アルプス市立図書館では、毎月2回「図書館でシネマ」と題した映画会を開催しています。

楕形生涯学習センター「あやめホール」の大きなスクリーンと大迫力の音響の中で、映画の世界にひたってみませんか？



上映作品は、お子様向けの「トムとジェリー」から一般向けの「スタンド・バイ・ミー」まで、幅広いジャンルから選んでいます。

もちろん入場無料で、どなたでも自由にご覧いただけます。

優雅な一日をぜひ、図書館で！

毎月のラインナップは広報をご確認ください。

